

あけましておめでとうございます。

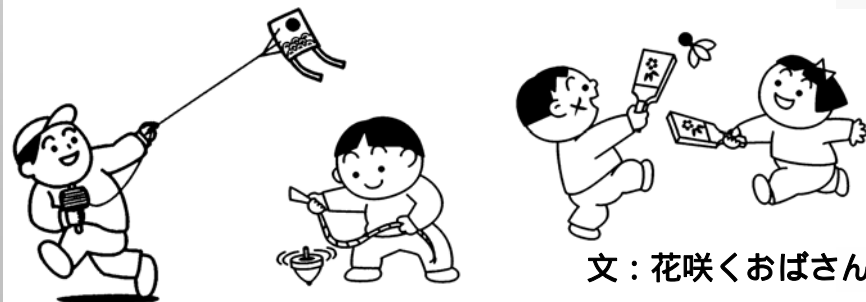
冬らしい寒さで、子(ね)年がやってきましたね。家庭では見られなくなったネズミですが、堅実な豊かさ、子沢山のシンボルとして、本当に今あやかりたいものです。

さてさて、今年もおばさんはカイロを友に森を散策。

ネズミモチ(モクセイ科)がネズミのフン(見た事ないけど)にそっくりの楕円形の黒い実を束にしてつけているのを見つけました。木肌はモチノキに似て短い柄の葉は対立、へりにギザギザはなく、厚く硬い。地味ながらも美しい木なので庭木として用いられてきました。成長しても下枝が枯れる事なく刈り込みにも耐えるので、生け垣によく見られます。病気や害虫、大気汚染、ばい煙、潮風と何にでも強い事ばかり。

でも何より親しまれたのは、荒神柴とも言って保健強壯薬として愛用された事のように。よく熟れた果実と生葉を煎じて服めば、消化器系の薬。焼酎につけて日常的に強壯薬としても飲まれています。

ネズミモチにそっくりのトウネズミは木も実もすべてが大きく(樹高6m)実が丸いので見分けは簡単。これも市街地によく植えられています。薬効は同様とされています。



文：花咲くおばさん

花暦睦月

森のなかま・モルモット

明けましておめでとうございます。

今年ネズミ年ですね。そこで、到津の森公園でもっとも人気のあるネズミの仲間、**モルモット**を紹介します。



「**モルモット**」とは実は愛称のようなもので、正式な和名は「**テンジクネズミ**」といい、ネズミ目テンジクネズミ科に分類されます。

体が小さく、とてもおとなしいモルモットはタッチタイムの人気者です。動物が怖くて泣いちゃった子ども、小さな赤ちゃんでも大丈夫。モルモットはじっとしたまま待ってくれます。モルモットが触れなかった子は、ほとんどいません。



到津の森公園ではモルモットとウサギを一緒に飼育しています。そのせいでしょうか、「ウサギのあかちゃんがいるよ!」と言われることがよくあります。「モルモットはウサギの仲間」だと思っている方もいるようですが、これは間違いです。ウサギはウサギの仲間、モルモットはネズミの仲間、仲良しですが全く違う動物なのです。

しかしウサギよりも、もっと間違えられる動物がいます。それは「ハムスター」です。ハムスターもネズミの仲間なので、よく似ている部分はありますが、やはり全く違う動物です。

それでは一体どこが違うのでしょうか?

その答えは、管理センターロビーで行われている「**モルモットに夢チュー展**」で調べてみてください。



とてもかわいいモルモットの親子にも会えますよ。

飼育展示係 鹿子嶋有希